



都市とアートとミライのお祭り 「六本木アートナイト2025」開催決定

日程:2025年9月26日(金)～28日(日)

今年の「**RAN Focus**」は韓国にフォーカス！

約30組のアーティストが繰り広げる50以上のプログラム
多様な文化と創造性が交差する、創造のエネルギーに包まれる3日間

六本木アートナイト実行委員会は、2025年9月26日(金)から28日(日)までの3日間にわたり、六本木の街を舞台にしたアートの祭典「六本木アートナイト2025」を開催します。「都市とアートとミライのお祭り」をテーマに、今年も六本木の街全体が創造のエネルギーに包まれます。



2009年の開催以来、回を重ねるごとに進化を続けてきた本イベントは、今年で14回目※を迎えます。なかでも注目のプログラムは、昨年からスタートした「RAN Focus」。特定の国・地域に焦点を当て、そこで活躍するアーティストによる作品を披露するプログラムとなり、今回は韓国にフォーカスします。今年、森美術館で開催された「マシン・ラブ：ビデオゲーム、AIと現代アート」展でも注目を集めた映像作家キム・アヨンや「ベアバルーン」を用いて都市を舞台に親しみやすい作品を展開するアーティスト、イム・ジピンをはじめとした気鋭の韓国人アーティストら6組による多彩なプログラムが六本木の街を彩ります。

さらに、美術館や文化施設、大型複合施設、商店街など六本木全域を舞台に、インスタレーション、パフォーマンス、音楽、映像、トーク、デジタルアートなど、約30組のアーティストによる50以上のプログラムを展開します。

街を巡ることそのものがアート体験となる特別な3日間。時代や価値観の変化をしなやかに受け止め、アートの可能性を社会に問いかけるこのイベントは、訪れる人々に新たな気づきとインスピレーションをもたらします。感性を刺激する出会いと発見に満ちた秋の六本木で、アートとともに過ごすひとときをお楽しみください。

※2011年は東日本大震災、2020年・2021年はコロナ禍により中止

■ 六本木アートナイト2025 開催に向けて

不確実な世界のなか、都市とアートとミライを想像する！

今年は9月26日(金)から28日(日)まで、「六本木アートナイト2025」を開催します。インスタレーションやパフォーマンスなど約30組のアーティストによる50以上のプログラムをお届けします。昨年始まった「RAN Focus」、今年は国交正常化60周年を迎えている**韓国にフォーカス！** IT産業やエンタテインメント産業で世界をリードする韓国では、多くのアーティストがグローバルに活躍しています。

今回の六本木アートナイトでは、森美術館の「マシン・ラブ」展で注目され、2025年LGグッゲンハイム賞も受賞した**キム・アヨン**の《デリバリー・ダンサーズ・アーク：0° レシーバー》(2024年)を六本木ヒルズアリーナの幅約13mの巨大LEDスクリーンで上映。現代のデジタル社会における労働、テクノロジー、アイデンティティなどを未来的なビジュアルで探求しています。また、3Dソフトウェアとインフレータブルな素材を使用した**カン・ジェウオン**の彫刻も、未来の宇宙から飛んできた飛行船を想像させる刺激的なものです。そして、韓国の伝統音楽である国楽(クガク)に現代的な要素を取り入れたダイナミックなパフォーマンスで世界的に評価される**TAGO**も登場。その他、バルーン、伝統工芸、布、和紙、ネオンなどさまざまな技法や素材を使ったカラフルで楽しく、そして意味を聞くと「なるほど!」と頷きたくなるアート作品の数々を、六本木の街全体でどうぞお楽しみ下さい。

六本木アートナイト実行委員長
片岡真実(森美術館館長)



撮影：新津保建秀



東京都



ARTS COUNCIL TOKYO





撮影：Kanghyuk Lee (Snakepool)

キム・アヨン

1979年生まれ、ソウル拠点。CGI、実写映像、ビデオゲームエンジンを駆使して、地政学、神話、テクノロジー、未来的図像を融合させた「スペキュラティブ・フィクション」というジャンルの物語を作り、ありえるかもしれない未来を通して現代社会を描き出す作品を制作しています。2023年にアルス・エレクトロニカのニュー・アニメーション・アート部門でゴールデン・ニカ賞（グランプリ）を、2025年にはアメリカのグッゲンハイム美術館でLGグッゲンハイム賞を受賞。

●場所：六本木ヒルズアリーナ



撮影：W Korea

カン・ジェウォン

1989年生まれ。ソウルを拠点に活動しているアーティスト、彫刻家です。彫刻刀のような伝統的な道具ではなく、3Dプログラムとタブレット端末を駆使して作品を制作しています。カンは今まで物理的なものとされていた彫刻を超えた作品のあり方に強い関心を寄せ、風船などを使用することで、彫刻を多様なサイズやメディアで展開し、発展し続けるものとして探求しています。精力的に活動しており、ホアム美術館（韓国）やポーランドの韓国文化院など、多くの美術館やギャラリーで作品を展示しています。

●場所：六本木ヒルズアリーナ



イム・ジビン

1984年生まれ、釜山出身のイム・ジビンは、2009年に上海当代美術館で開催された「Animamix Biennial」でデビューした後、ソウルを拠点に活動しています。2011年からソウルで開始した公共アートプロジェクト《EVERYWHERE》は、現在までにアジア、北米、ヨーロッパ、中東など50を超える都市で展開され、都市における公共アートの新たな可能性を提示。ソウル美術館、大邱美術館、アブダビ・マナラト・アル・サアディヤット美術館など多数の美術館や、ユネスコ、国連財団、ユニセフ、2018年平昌冬季オリンピック・パラリンピック競技大会などの公共機関をはじめ、グッチ、コカ・コーラ、ナイキ、サムスンなどの多様なグローバルブランドとのコラボレーションを通じて、芸術の社会的役割を拡大し続けています。

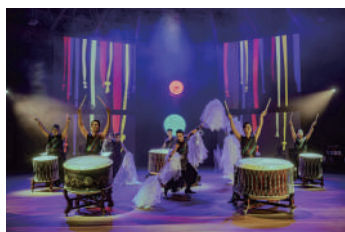
●場所：東京ミッドタウン コートヤード、プラザ1階、ガレリアB1階、六本木各所エリア



ジン・ヨンソブ

1958年釜山生まれ。慶星大学校大学院卒業。金属工芸専攻。釜山、ソウル、神戸、福岡などで個展を多数開催。2009～2018年レジデンス芸術創作空間「アートファクトリー・イン・ダデボ」を運営し、芸術の社会的参加を实践するために釜山の「甘川文化村」にてコミュニティアート活動を行いました。その他、中国海南海口アートプロジェクト、種子島「くろしおアートプロジェクト」にて芸術監督（2011～2023年）を務めています。

●場所：龍土町美術館通り



TAGO

「太鼓で世界を照らす」という意味を持つTAGO(タゴ)は、力強く創造的な演奏で韓国文化の素晴らしさを世界と共有するべく活動する若き韓国の打楽器集団です。大型の太鼓から小さな楽器まで駆使し、芸術の要素を取り入れた演奏は、リズムカルなエネルギー、正確な振り付け、スリリングなアクロバットが特徴で、エキサイティングな演奏を体感できます。2015年にソウルのアート専門団体に指定され、2016～2017年には「エディンバラ・フェスティバル・フリンジ」で5つ星評価を獲得。2017年には著名な音楽祭「WOMAD」に招かれ、2018～2025年にかけて欧州、南米、北米で公演。

●場所：六本木ヒルズアリーナ、龍土町美術館通り、東京ミッドタウン(実施予定)

■ RAN Focus | アーティスト紹介



ソ・ナンジェ

ソ・ナンジェは、韓国を拠点とする現代サーカスのパフォーマー兼クリエイターで、オブジェクトベースのフィジカルシアターとインタラクティブパフォーマンスを専門としています。《ポロシウム》や《ワン・ツー！ワン・ツー！》といったオリジナル作品を創作し、日本、台湾、シンガポール、イタリアなど、アジアとヨーロッパ各地で国際的に公演を行っています。

●場所：六本木ヒルズアリーナ、六本木ヒルズ 66プラザ

■ エリア横断プログラム



《EVERYWHERE》
2.5x2.5x4m 風船

イム・ジビン《EVERYWHERE》

RAN Focus パフォーマンス

慣れ親しんだ街角や公共の空間にグリラ形式で作品を設置し、瞬間的な美術館へと変貌させる「デリバリー・アート (Delivery Art)」の概念を実践してきたイム・ジビンの代表的プロジェクト《EVERYWHERE》は、どこかに挟まれて潰れたクマの風船の造形物「ベアバルーン」を都市の至る所に設置し、観覧客が日常の中で自然に芸術と出会うことができるように企画された展示です。

イム・ジビンは、激しい日常を生きていく現代人の姿を潰れた「ベアバルーン」で表現し、都市の風景の中にある見慣れた空間に、愉快で比喩的な造形物を通して小さな慰めと笑いを伝えます。

今回、街なか各所に「ベアバルーン」を出現させるパフォーマンスを実施いたします。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木各所エリア 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 参加料：無料



ソ・ナンジェ《ポロシウム》

RAN Focus パフォーマンス

《ポロシウム》はボールとコロシウムを組み合わせた造語で、観客参加型サーカスパフォーマンスです。ポールを立てるというシンプルな目的を達成するため、パフォーマーも観客も一連のプロセスを経験することで、その間の境界は崩れていきます。《ポロシウム》は観客とともに作り上げていくものであり、その過程で起こる人間関係や協力、そして苦闘や失敗の瞬間など、そのプロセスそのものが重要です。それはまさに、人生の縮図です。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ、六本木ヒルズ 66プラザ
- 参加料：無料



TAGO《韓国の鼓動 ドラム・シャーマン》

RAN Focus パフォーマンス

韓国の伝統芸能を現代的なセンスを活かして斬新なスタイルで受け継ぐパフォーマンスグループ「TAGO」。打楽器によるグループアンサンブルと躍動的な舞踊が一体となったそのステージは世界の舞台芸術の祭典「エディンバラ・フェスティバル・フリンジ」でも高い評価を受けるなど、世界各地で輝かしい注目を集めています。六本木ヒルズアリーナで会期中、毎日公演するほか、ほかの場所でも度々ミニパフォーマンスを行います。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ、龍土町美術館通り、東京ミッドタウン(実施予定)
- 参加料：無料

■ エリア横断プログラム



佐藤翔吾《箱しばい》

オープンコール・プロジェクト採択作品

パフォーマンス

紙芝居ならぬ、《箱しばい》の六本木アートナイトスペシャルのお届けです!かつて、街中のあちこちで多くの人の心を掴んでいた紙芝居を、現代の大都会ここ六本木で“ニューパフォーマンス”として昇華させます。演者がキューブを次々と組み変え変化する絵柄たち。「生語り」や「生演奏」とのコンビネーション。そうこれは、ストイックなるものではなく、厳かなるものではなく、ユーモアと笑い、ときに緻密に壮大に!子どもから大人まで全てのみんなが楽しめるパフォーマンス。佐藤翔吾とゆかいな仲間たちでお送りします。お楽しみに!

- 日時: 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 龍土町美術館通り、東京ミッドタウン プラザB1階(実施予定)
- 参加料: 無料



望月ゆうさく×めぐみ梨華《駒と空間と光が交錯するポリリズム》

パフォーマンス

ジャグリングとプログラミングされた光が組み合わされたマルチメディアジャグリング。ディアボロという駒の要素を持つジャグリング道具を用いて、それらの特性を拡張した、光や音などさまざまな表現で体感して頂くコンテンツラリーサーカuspフォーマンスです。空中を飛び交うディアボロと六本木の空間とを繋ぐ作品をお楽しみください。

- 日時: 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズ 66プラザ、龍土町美術館通り
- 参加料: 無料



撮影: Riho Kamiya
©野毛大道芸

ながめくらしつ《Minimal juggling》

パフォーマンス

比類なき表現力と独創性で、長年日本の現代サーカス界を牽引してきた「ながめくらしつ」。主宰の目黒陽介と、同団体の作品に多数出演経験があり、迫力ある舞踊のような独自のジャグリングで魅せる山村佑理。ジャグリング界において唯一無二のスタイルで、SNSを中心に海外でも高い人気を誇る大橋昴汰。今回は3人の個性的なジャグラーが、複雑なボールパスや息の合ったユニゾンなどの技術的な驚嘆と、視覚的な流麗さを兼ね備えたボールジャグリングを、現代音楽作曲家イーガル書き下ろしの情緒的な楽曲にのせてお届けします。

- 日時: 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズ 66プラザ、龍土町美術館通り
- 参加料: 無料

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ



キム・アヨン

《デリバリー・ダンサーズ・アーク:0° レシーバー》

RAN Focus

インスタレーション

《デリバリー・ダンサーズ・アーク:0° レシーバー》(2024年)は、キムの《デリバリー・ダンサーズ・スフィア》(2022年)の2つの続編のうちの1つで、テクノフューチャリスティックなソウルの街と様々な次元を舞台に、若い女性配達員達の旅を描いています。本作では、彼女たちは普通の配達物ではなく、より抽象的で根源的なもの、「時間」を運びます。異なる暦法のシステムや天文学的技術を横断しながら、彼女たちは互いに矛盾し衝突する時空のネットワークに巻き込まれていきます。

コミッション: ACMI (メルボルン、オーストラリア)

- 日時: 9/26(金)~9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズアリーナ
- 参加料: 無料

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ



カン・ジェウオン《Exo2_crop_xl》他

RAN Focus

インスタレーション

《Exo2_crop_xl》(2022年)をはじめとする作品群は、デジタルで生成された彫刻をアーティストが物理的に再現したシリーズです。見た目は金属のようで頑丈そうに見えますが、実際は空気で膨らませた風船でできていて、空洞であり、送風機の電源が切れて空気が抜けると形を保つことができなくなります。これらの作品群で、カンは今まで物理的なものとしてのみ存在していた彫刻が、デジタル・テクノロジーの発展を受けて異なる大きさやメディアに進化する可能性を追及しているのです。

- 日時: 9/26(金)～9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズアリーナ
- 参加料: 無料



川原隆邦《量子の共鳴》

インスタレーション

伝統と革新

手漉き和紙の概念を超えるべき作品であり、10mを超える一枚和紙の水墨画でもあります。また、あらゆる物を和紙化する川原氏が電子基盤を和紙化し墨で月の裏を描く。新たな日本工芸への問いかけ。10mを超える新・水墨画は必見です。

- 日時: 9/23(火・祝)～9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズ ヒルズカフェ / スペース
- 参加料: 無料



川原隆邦《旅する風車》

ワークショップ

懐かしい日本の玩具であるが身近ではなくなってしまった。
持って歩くだけで優しい風を受けて回る風車。
色々なところに持ち歩き色々な風を感じよう。
和紙で風車をつくるワークショップを実施します。

- 日時: 9/26(金)～9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズ ヒルズカフェ / スペース
- 参加料: 無料



撮影: 財団法人原住民族文化事業基金会 (台湾)

リン・ジェウエン／ラバイ・イヨン《赤い恐竜》《緑の恐竜》

インスタレーション

約3メートルもある《赤い恐竜》と《緑の恐竜》は、どちらも林(リン)の息子たちが制作のきっかけになっています。長男に赤い恐竜のおもちゃが好きな理由を聞いたことをきっかけに、林は恐竜がなぜこんなにも子供たちを惹きつけるのか、その魅力を解明しようと《赤い恐竜》を制作しました。一方、《緑の恐竜》は兄に追いつこうとする次男に焦点を当てて制作された作品です。林が得意とする織物と金属加工の技術で作られた本作品は、息子たちのやんちゃさだけでなく、彼らの美しさや強さも母親の目線からユーモアたっぷりに表現されています。

- 日時: 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズ ウエストウォーク2階
- 参加料: 無料

長期展示プログラム

インスタレーション

小野海《Prism-Aureola》

《Prism-Aureola》は日常生活の中で自然と人が交わる瞬間に着目し制作した巨大な彫刻作品です。雲、雨、虹などの空に由来するモノをモチーフに、空の営みを“時間の具現化”と捉え、空から地上へと降り注ぐ現象が彫刻装置の中で重力と共に再構成されています。小野自身は「美しいモノは日常の中に沢山ある。欲張らず、自分の周りにあるモノに気付くこと、そしてそれらをちゃんと見ること。この作品がきっかけになればと思う」と語っています。

- 日時: 9/26(金)～10/5(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所: 六本木ヒルズ ウエストウォーク2階
- 参加料: 無料



■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ



展示風景：「アリ・バユアジ 瞑想の行為」
カナダ大使館 高円宮記念ギャラリー（東京）2025年

アリ・バユアジ「Weaving the Ocean (海を織る)」プロジェクトより

インスタレーション

インドネシアで土木工学を学び、技師として仕事をした後、カナダのモントリオールで美術を学んだアリ・バユアジは、バリ島の海辺のマングローブの根にプラスチック製のロープが大量に絡まっているのを発見したことをきっかけに、コロナ禍の移動制限最中の2020年、地域密着型のアートプロジェクト「Weaving the Ocean (海を織る)」を立ち上げます。伝統的な技法の織り職人の協力も得て釣りロープや網などのプラスチック廃材を鮮やかな色のナイロン糸へとアップサイクルし、織細で美しい織物として昇華させることで、本プロジェクトは持続可能な収入源や教育の場として発展してきました。ここでは自然、伝統、そしてサステナビリティが交差するバユアジの多彩な表現をご紹介します。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズ ハリウッドビューティプラザ1階・2階
- 参加料：無料



Product Management：熊崎 耕平 | HAKUTEN
Producer：曾谷 秀一 | HAKUTEN
Technical Director：赤川智洋 | A-KAK

高橋匠 | HAKUTEN《Prism | Crossing》

インスタレーション

世界中の人々が行き交う交差点。
多くの車が往来する高速道路。
多様性と文化が交差する街、六本木をPrismの光で表現。
鑑賞者も参加しながら、光を介して人と人を繋ぐ光のインスタレーション。

- 日時：9/26(金)18:30～22:00、9/27(土)13:00～22:00、9/28(日)13:00～20:00
- 場所：六本木ヒルズ ノースタワー
- 参加料：無料



草野絵美《Synthetic Youth - Takenoko Zoku》

インスタレーション

1980年代初頭、東京・原宿の路上には若者文化「竹の子族」が出現しました。鮮烈な衣装を身にまとい、歩行者天国で突如踊り出した彼らは、ごく短期間だけ強烈な印象を残し、跡形もなく姿を消しました。本作では、アーティスト自身が直接体験することのなかった曖昧で刹那的なカルチャーを、西洋で得られる情報に限って学習させた生成AIの想像力のみで再構築しています。「実在しない音楽」と「現実には存在しなかった映像」を通じて、若さやファッションが持つ儚さとノスタルジーを問いかけています。

- 日時：9/26(金)～9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク2階 モニター、六本木ヒルズ メトロハット 大型ビジョン
- 参加料：無料



©Hiroyasu Daido

榎田祥光《糧》

オープンコール・プロジェクト採択作品

パフォーマンス

《糧》という作品は「食べる」という視点から構想を膨らませました。
食べる事は生きることであり命そのもの、この自然界では当たり前前に繰り広げられている命のやりとりや、現代社会の縮図である弱肉強食を踊りを通じて表現します。残酷にも見えるこの命のやりとりの中で生まれる一瞬の輝きを、残酷で美しい世界として昇華します。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料



谷桃子バレエ団《(仮称) バレエナイト～六本木“Ozero”～》

オープンコール・プロジェクト採択作品

パフォーマンス

バレエ作品といえば…と皆さんが思い浮かべる代表的な作品《白鳥の湖》をテーマとして、六本木を象徴するスポットの一つである、六本木ヒルズアリーナでバレエナたちが舞います。
Ozeroとは《白鳥の湖》の音楽とバレエ作品が生まれたロシアの言語で「湖」の意味であり、六本木の街に湖を映し出し幻想的な空間と踊りを大都市である六本木に調和させ、バレエ音楽以外の楽曲とも組み合わせて古典芸術を近代的な大都市の街中に溶け込ませていきます。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ

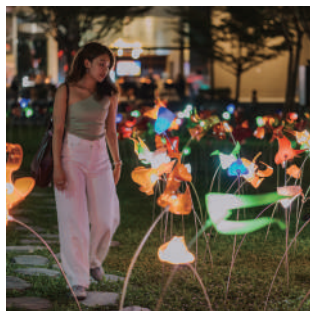


Open Reel Ensemble

パフォーマンス

オープンリール式テープレコーダーを複数台用いた生ライブ・パフォーマンスを展開します。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ
- 参加料：無料



画像提供：i Light Singapore

シャオ・シュアン・タン&メーガン・タン《わたしと一緒に 野原を歩こう》

インスタレーション

このインスタレーションは、「人は皆、そっと、けれど確かに世界に足跡を残していく」という想いから生まれました。

かつて捨てられたアクリル片が、いま、花のかたちとなって咲き誇る野原。

あなたがその中を歩くとき——光が灯り、音楽がふわりと立ちのぼります。

空間があなたにそっと、応えるのです。

「わたしと一緒に 野原を歩こう」それは、あなたがいつでもなにか大きなものとつながっているということ。

その静かで美しいつながりを、ここで、そっと感じていただけたなら——。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズ 66プラザ
- 参加料：無料



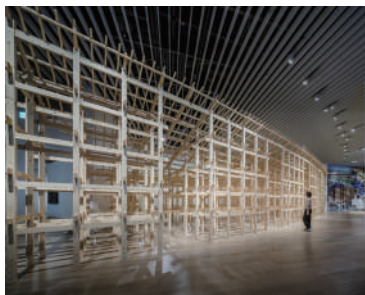
出演：酒井はな 振付：堀内将平 (K-BALLET TOKYO) 《わたしの中のあなた》

パフォーマンス

六本木ヒルズを象徴するルイズ・ブルジョワの彫刻《ママン》から着想を得た本作は、彫刻の持つ「母性」「包容」のメッセージから着想を得て、「母と子の結びつき」「生命の美しさ」を主題として展開します。《ママン》の足元で踊るダンサーは、都市と彫刻と共鳴しながら、生命の神秘を体現していきます。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズ 66プラザ
- 参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介 | 森美術館



セクション5：開かれた円環
展示風景：「藤本壮介の建築：原初・未来・森」
森美術館（東京）2025年
撮影：八代哲弥
画像提供：森美術館

藤本壮介の建築：原初・未来・森

2025年大阪・関西万博の象徴《大屋根リング》の設計者、藤本壮介初の大規模個展。活動初期から世界各地で現在進行中のプロジェクトまで8セクション構成で網羅的に紹介し、約30年にわたる歩みや建築の特徴、思想を概観します。展示には、模型や設計図面、竣工写真に加え、インスタレーションや空間を体験できる大型模型、モックアップ（試作モデル）なども含まれ、建築に携わる人だけでなく、だれもが藤本建築のエッセンスを体感できる、現代美術館ならではの展覧会です。

●日時：7/2(水)～11/9(日)10:00～22:00（最終入館21:30）

※火曜日のみ17:00まで（最終入館16:30）

ただし8/27(水)は17:00、9/23(火・祝)は22:00まで

●場所：森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）

●入館料：[平日] 一般2,300円 (2,100円)、学生（高校・大学）1,400円 (1,300円)、中学生以下無料、シニア（65歳以上）2,000円 (1,800円)

[土・日・祝日] 一般2,500円 (2,300円)、学生（高校・大学）1,500円 (1,400円)、中学生以下無料、シニア（65歳以上）2,200円 (2,000円)

※（ ）はオンライン料金



ツァオ・フェイ（曹斐）
《ヒップ・ホッパー-広州》
2003年

MAMコレクション020：世界は小さな物語のなかに一下道基行、ヴァンディー・ラッタナ、ジャン・オー（張鳴）、ツァオ・フェイ（曹斐）

国家や人種、歴史との狭間にある名もなき風景や人々の存在をテーマに、20世紀初頭から現代に至るまで変化し続けるアジア諸国と米国との歴史や影響関係を独自の視点で表現する、アジアルーツの4名のアーティスト、下道基行、ヴァンディー・ラッタナ、ジャン・オー（張鳴）、ツァオ・フェイ（曹斐）の作品を紹介します。

●日時：7/2(水)～11/9(日)10:00～22:00（最終入館21:30）

※火曜日のみ17:00まで（最終入館16:30）

ただし8/27(水)は17:00、9/23(火・祝)は22:00まで

●場所：森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）

●入館料：「藤本壮介の建築：原初・未来・森」のチケットで観賞可



展示風景：「クリスティーン・サン・キム：キューズ・オン・ポイント」分離派会館（ウィーン）2023年
撮影：Oliver Ottenschläger
Courtesy: Secession and François Ghebaly Gallery

MAMプロジェクト033：クリスティーン・サン・キム

アメリカ出身でベルリンを拠点に活動するクリスティーン・サン・キムのサウンド・インスタレーションと新作の壁画を展示します。キムはこれまでドローイングをはじめ、映像、彫刻、インスタレーションなどを通して、音の非聴覚的な側面や、そこに潜む政治的な意味を探索してきました。ウィットに富んだキムの作品は、音と言語、コミュニケーションの複雑さを示しながらも、「伝える」ことの本質とその可能性をあらためて提示します。

●日時：7/2(水)～11/9(日)10:00～22:00（最終入館21:30）

※火曜日のみ17:00まで（最終入館16:30）

ただし8/27(水)は17:00、9/23(火・祝)は22:00まで

●場所：森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53階）

●入館料：「藤本壮介の建築：原初・未来・森」のチケットで観賞可

■ エリア別プログラム紹介 | 東京ミッドタウン



《あなたは一人じゃない》2018年
7x5x8m 風船

イム・ジビン《あなたは一人じゃない》他

RAN Focus

インスタレーション

《You Are Not Alone (あなたは一人じゃない)》は、白いクマと黒いクマが互いを抱きしめる姿を通じて、連帯と調和、慰めのメッセージを伝えています。2018年平昌冬季パラリンピック競技大会でも設置されたこの作品は、差異を超えた包容と共感を象徴的に表現しています。同時に紹介される《Space in LOVE》シリーズは、「心の窓」と比喻される目を通じて、ポジティブさと希望のメッセージを直感的に伝え、感情的なコミュニケーションの領域を拡張します。今回は他に2つの作品も展示予定。

- 日時：9/26(金)～9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン コートヤード、プラザ1階、ギャラリーB1階
- 参加料：無料

長期展示プログラム

インスタレーション



《4つ目の境界》2022年

小林万里子《未定》(TOKYO MIDTOWN AWARD 2014 アートコンペ受賞者)

天井から流れ落ちる水の恵みを求めて、さまざまな動植物がツリーシャワーの前に姿を現します。布、糸、和紙、粘土など多様な自然素材を用い、染めや刺繍によって動植物の生命の循環が空間全体で表現されます。あらゆる生命の源である水ですが、流れた水はどこへゆき、どのような旅を経て、私たちの元へ再びやってくるのでしょうか。水によってつながり繰り返される生命の営み、その物語の一片を想起させるインスタレーションです。

- 日時：9/23(火・祝)～10/5(日)11:00～23:00
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア1階 ツリーシャワー
- 参加料：無料



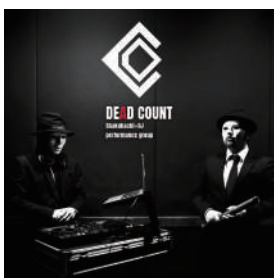
中田愛美里、まちだりな (TOKYO MIDTOWN AWARD 2022・2024 アートコンペ受賞者)

インスタレーション

意外な場所でアートと物語に出会う「移動式アートシアター」

今後さらなる活躍が期待されるアーティスト、中田愛美里・まちだりなの作品を、「何気ない日常でアートと出会う」をコンセプトに館内各所で放映。ふとした瞬間にアートに触れ、思わぬインスピレーションが得られるような空間をお届けします。

- 日時：9/26(金)～9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア各階
- 参加料：無料



©since2009 DEAD COUNT. all rights reserved.

小林鈴勘 (JAZZ尺八)、山口晃司 (三味線)、DEAD COUNT (尺八×DJ)、Nukie (電子講談)

伝統芸能×次世代アーティストステージ

パフォーマンス

エンターテインメントの新境地を切り拓くアーティストたちが集結！連日、独創的なパフォーマンスを繰り広げます。

- 日時：9/26(金)～9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン オープンスペース 詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介 | 東京ミッドタウン



昨年展示の様子

TOKYO MIDTOWN AWARD 2025 Pre EXHIBITION

長期展示プログラム

今年で18回目となる「TOKYO MIDTOWN AWARD」は、東京ミッドタウンが「JAPAN VALUE (新しい日本の価値・感性・才能)」を創造・結集し、世界に発信し続ける街」をコンセプトに、才能あるデザイナーやアーティストとの出会い、応援、コラボレーションを目指して、デザインとアートの2部門で開催するコンペティションです。「TOKYO MIDTOWN AWARD 2025 Pre EXHIBITION」では、TOKYO MIDTOWN AWARD 2025 アートコンペ入選者6組による作品を先行展示します。

●日時：9/25(木)～10/9(木)6:30～0:30

●場所：東京ミッドタウン プラザB1階

●参加料：無料

※10/10(金)～11/9(日) TOKYO MIDTOWN AWARD 2025 EXHIBITION

※10/20(月) TOKYO MIDTOWN AWARD 2025 授賞式



シシになるワークショップ

多摩美術大学 TUB 連携プログラム

暮らしに身近な素材から、「祭」に使う仮面や衣装を作り、纏い、踊るワークショップ。

自然/土地/他者/死者/モノ、様々な関わりを再認識し、体感し、最終日(9/28)には、岩手県遠野市から張山しし踊りを招き、演舞の場を創出。現代社会における「祭」の意義を多角的に捉え直し実践を続けることで、地域の自然環境/人々の繋がり/モノづくりの仕組み、それぞれが持続的に維持するための装置として機能させる試みです。

むかしめがね(高橋慶成/坂井治)

[共創パートナー]

・南部隆一(ACTANT FOREST / Comoris DAO デザインディレクター)

・富川岳(株式会社富川屋代表/シシ踊り舞手)

・石倉敏明(人類学者/秋田公立美術大学准教授)

・多摩美術大学TUB

●日時：演舞の場 9/28(日) 時間はウェブサイトにて掲載予定

※演舞のための制作ワークショップは9月中に実施予定

●場所：東京ミッドタウン オープンスペース 詳細はウェブサイトにて掲載予定

●参加料：演舞の観覧は無料。制作ワークショップは有料予定



東京ミッドタウン・デザインハブ特別展

同時開催プログラム

Tokyo Illustrators Society Presents Illustration Works

179人のイラストレーターによるベストワーク展

イラストレーターという職業が日本で認知されるようになってから、半世紀以上が過ぎました。戦後のグラフィックデザインの系譜の中で培われてきたイラストレーションは現在でも躍動を続けており、「先進的な表現」と「社会的流通性」の両面を持ち合わせながら発展してきているといえます。本企画はイラストレーターの仕事に焦点をしばり、多様なメディアを通じた各々のベストワークを集結。幅広い世代が活躍する東京イラストレーターズ・ソサエティ会員の仕事を通じて、過去約30年間の表現の変化や社会的役割など、イラストレーションの魅力をご紹介します。

●日時：9/5(金)～9/28(日)11:00～19:00

※9/27(土)は休館

●場所：東京ミッドタウン ミッドタウン・タワー 5階 東京ミッドタウン・デザインハブ

●入場料：無料

■ エリア別プログラム紹介 | 東京ミッドタウン



虹色の風《Wonder City ー空想都市計画ー》

インスタレーション

未知の星や架空の街、そしてそこで暮らす人々やロボットに思いを馳せ毎日作品を制作している作家たちがいます。そんな架空の星や町に名前をつけることで、それらはあたかも現実に存在するかのように立ち現れ観る者をその世界に引き込みます。次から次へと湧き上がるストーリーと制作への純粋な情熱は圧倒的な熱量となって伝わってきます。この独特で、永遠に果てしなく継続するような、そしてどこかほっとする空想都市計画にあなたも参加しませんか？一緒に楽しみましょう！

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン ガレリア2階(実施予定)
- 参加料：無料



第17回六本木フォトコンテスト写真展

“あなたが見つけた六本木の素顔を、自由に切り撮ってください”をテーマに、17回を迎えた六本木フォトコンテスト。日々変化する六本木のまちでの新しい発見やユニークな視点での写真を展示します。

- 日時：9/19(金)～10/16(木)10:00～19:00(最終入館18:50)
10/16(木)は16:00まで(最終入館15:50)
- 場所：東京ミッドタウン ミッドタウン・ウェスト1F 富士フィルムフォトサロン 東京
- 参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介 | サントリー美術館



幕末土佐の天才絵師 絵金

土佐の絵師・金蔵(1812～1876年)は、幕末明治期に多くの芝居絵屏風を残し、地元高知では「絵金さん」の愛称で親しまれてきました。絵金の屏風絵は今なお夏祭りの間に高知各所の神社等で飾られ、闇の中で蝋燭の灯りに照らされる作品群は、見る者に鮮烈な印象を残しています。本展は東京の美術館では初の大規模な回顧展です。同時代の絵師の中でも一段と異彩を放つ絵金の作品をご堪能ください。

- 日時：9/10(水)～11/3(月・祝)10:00～18:00(最終入館17:30)
※9/26(金)、27(土)は21:00まで開館(最終入館20:30)
※金曜日および11/1(土)、11/2(日)は20:00まで開館(最終入館19:30)
※休館日：毎週火曜日(9/23、10/28は開館)
- 場所：サントリー美術館 展示室
- 入館料：一般1,800円、大学生1,200円、高校生1,000円、中学生以下無料

サントリー美術館 絵金ナイト

絵金ゆかりの高知で毎年開催される夏祭りでは、絵金の芝居絵屏風が神社や商店街などに飾られ、蝋燭や提灯で照らされる幻想的な光景が広がります。「幕末土佐の天才絵師 絵金」展に関連し、高知の夏祭りを疑似体験できる空間をお届けします。

- 日時：9/26(金)、9/27(土)11:00～21:00、9/28(日)11:00～18:00
- 場所：サントリー美術館 1階レクチャールーム
- 参加料：無料



伊達競阿国戯場 累 香南市赤岡町本町二区
※「絵金ナイト」では再現展示を行います。
実際の作品は1階レクチャールームでは
展示されません。

■ エリア別プログラム紹介 | 21_21 DESIGN SIGHT



会場風景 (ギャラリー 2) 撮影: 木奥恵三

そのとき、どうする？展 -防災のこれからを見渡す-

自然災害はいつどこで発生するか、確実にはわかりません。しかし災害から目を背けなければ、今やるべきことや、考えるべきことが見えてくるのではないのでしょうか。

本展では、そもそも災害とはなにかという視点から、データビジュアライゼーションをはじめとしたリアルな状況把握や、防災に関するプロダクト、災害をきっかけに生まれたプロジェクトなど、人々が直面してきた自然災害とその周辺を広く見つめ直します。そのうえで、改めて向き合いたい、いくつかの「問い」を会場に散りばめます。あらかじめ想像しておけば、未来は少し変えられるかもしれません。

- 日時: 7/4(金)~11/3(月・祝)10:00~19:00 (最終入館18:30)
※9/26(金)、9/27(土)は22:00まで開館 (最終入館21:30)
※休館日: 毎週火曜日 (9/23は開館)
- 場所: 21_21 DESIGN SIGHTギャラリー 1&2
- 入館料: 一般1,600円、大学生800円、高校生500円、中学生以下無料

■ エリア別プログラム紹介 | 国立新美術館



《平和なんて朝飯前 (10XL) vs 平和なんて朝飯前 (10XL)》
2025年
撮影: 作日製作

胡宮ゆきな《平和なんて朝飯前 (10XL) vs 平和なんて朝飯前 (10XL)》

インスタレーション

《平和なんて朝飯前 (IT'S A PEACE OF CAKE)》は、“Piece”を“Peace”に置き換えた造語です。台湾の夜市で見た雞蛋糕 (ベビーカステラ) の袋の中に、銃と鳩といった相反する象徴が共存していた光景は、矛盾が無自覚に消費される現代の構造を想起させました。可食素材とインフレータブルという異なるスケールのメディアを通して、身体を起点に思想や欲望が取り込まれるプロセスを可視化させ、世界の複雑さとその脆弱性に改めて目を向けます。

- 日時: 9/26(金)~9/27(土)10:00~20:00 (最終入場19:30)
9/28(日)~9/29(月)10:00~18:00 (最終入場17:30)
- 場所: 国立新美術館 1階ロビー
- 観覧料: 無料



時代のプリズム: 日本で生まれた美術表現 1989-2010

昭和が終わり、平成の始まった1989年から2010年までに、日本でどのような美術が生まれ、日本からどのような表現が発信されたのか。本展は、国内外の50を超えるアーティストの実践を検証します。この20年間は、冷戦体制が終わり、人、ものが行き来するグローバル化の始まりによって、国際的な対話が大いに促進された時期です。アジア地域におけるパートナー美術館、香港のM+との協働キュレーションにより、変化に富んだ時代を見つめなおします。

- 日時: 9/3(水)~12/8(月)10:00~18:00 (最終入場17:30)
※毎週金・土曜日は10:00~20:00 (最終入場19:30)
※休館日: 毎週火曜日
ただし9/23(火・祝)は開館、9/24(水)は休館
- 場所: 国立新美術館 企画展示室1E
- 観覧料: 一般2,000円、大学生1,000円、高校生500円

■ エリア別プログラム紹介 | 国立新美術館



ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧

色彩は何千年もの間、芸術における最も強力なインスピレーションのひとつでした。画家、デザイナー、彫刻家、エナメル職人、金細工職人、宝石職人は、目に見える世界だけでなく感情をも表現するために、色彩の力を用いたのです。「カレイドス」はギリシャ語に由来し、「美しい(カロス)」「形態(エイダス)」を意味します。本展ではさながら万華鏡のなかを巡るかのよう、メゾンの歴史を刻む「ブルガリ・ヘリテージ・コレクション」と個人コレクションから、貴重なジュエリーを紹介します。素材、フォルム、色調の融合からなる約350点のヘリテージピースは、美と卓越性を追求し、様々な文化を越えて、色彩の力により皆様を魅了します。

●日時：9/17(水)～12/15(月)10:00～18:00(最終入場17:30)

※毎週金・土曜日は10:00～20:00(最終入場19:30)

※休館日：毎週火曜日

ただし9/23(火・祝)は開館、9/24(水)は休館

●場所：国立新美術館 企画展示室2E

●観覧料：一般2,300円、大学生1,000円、高校生500円

※本展は日時指定券を導入します。詳しくは美術館ホームページをご覧ください



<公募展>第88回 新制作展

同時開催プログラム

●日時：9/17(水)～9/29(月)10:00～18:00(最終入場17:30)

※9/19(金)、9/26(金)は20:00まで(最終入場19:30)

※最終日9/29(月)は14:00まで(最終入場13:30)

※休館日：毎週火曜日

ただし9/23(火・祝)は開館、9/24(水)は休館

●場所：国立新美術館 公募展示室1A,1B,2A,2B,3A,3B、野外展示場A,B

●観覧料：一般 1,000円、団体(20名以上) 500円、大学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方及び付添者1名まで無料

行動展との相互割引(一般：1,000円→500円)



<公募展>第80回記念 行動展

同時開催プログラム

●日時：9/17(水)～9/29(月)10:00～18:00(最終入場17:30)

※9/19(金)、9/26(金)は20:00まで(最終入場19:30)

※最終日9/29(月)は14:00まで(最終入場13:30)

※休館日：毎週火曜日

ただし9/23(火・祝)は開館、9/24(水)は休館

●場所：国立新美術館 公募展示室1C,1D,2C,2D、野外展示場C,D

●観覧料：一般 800円、団体(15名以上) 400円、大学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方及び付添者2名まで無料、金曜日の午後6時以降無料

新制作展との相互割引(一般：800円→400円)

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木街なかプログラム(六本木各所エリア)



《木のお魚》2013年 中国

ジン・ヨンソプ《五方色の木のお魚縁台》

RAN Focus

インスタレーション

都会の地面の上に置かれた縁台に横たわる木の魚。そこで人は安らぎお互いを見つめます。鮮やかに彩られ吉祥紋が施されたこの縁台は韓国伝統家屋の庭に置かれた縁台の概念を現代都市空間に拡張した作品です。日本ではお馴染みの細長い縁台を数個組み合わせると、韓国式の広い縁台になり、狭い路地や広場で様々な組み合わせ方で展開されます。また、この作品は普遍的な縁台ではなくコミュニティアートによって生まれた、龍土町美術館通りに誕生する共同体の象徴です。

●日時：9/26(金)18:30～22:00、9/27(土)13:00～22:00、9/28(日)13:00～20:00

●場所：龍土町美術館通り

●参加料：無料



奥山太貴《横断のための目印》

インスタレーション

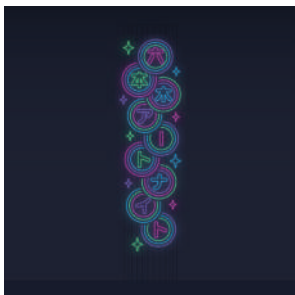
ネオンをモチーフにしたインスタレーションです。LEDにアップデートされた街頭のサインは、欲求を刺激して射幸心を煽っていた従前の用途から切り離されると、描線が眩しく明滅するだけの装置となります。どんな環境下でも視認できる明るい光の瞬きは、機能を持たずとも人を惹きつけ、高揚感を生み出します。それはこの交差点を中心とした街において、幹線道路の分断／街と芸術の境界／日常と祭りの節目／見えない階層などを横断していくための目印になるかもしれません。

協力：mud Inc. / moult Inc.

●日時：9/26(金)18:30～24:00、9/27(土)13:00～24:00、9/28(日)13:00～20:00

●場所：ラビロス六本木

●参加料：無料



奥山太貴《現在地 feat.六本木アートナイト》

インスタレーション

イベントの開催を伝えるLEDのネオンサインです。祝祭感をまとった派手なインフォメーションは、目的地への誘導であり、祭りへの入口であり、芸術への招待であり、そのときここに到着した記録でもあります。うたかたの夜に力強く立ち上がった発光体のもと、人々が集まり、明滅のループの中で永遠と刹那を感じます。今ここは、六本木アートナイトです。

協力：mud Inc. / moult Inc.

●日時：9/26(金)18:30～24:00、9/27(土)13:00～24:00、9/28(日)13:00～20:00

●場所：六本木交差点

●参加料：無料



Light is Life - Festa delle Luci A2A - Brescia 2023
Courtesy of Light Art Collection

島田正道《Birds fly around with you》

インスタレーション

羽ばたく姿の鳥のオブジェが直径8mの輪に沿って配置されています。輪の中を歩くとセンサーが感知して個々の鳥が光ります。鳥が順番に光っていくことでアニメーションのように羽ばたいているように見えるというインタラクティブ作品です。

アムステルダムライトフェスティバル(2015年)で最初に展示された後、10カ国以上のライトフェスティバルで展示されてきました。この鳥たちは旅をして世界中の人々と友達になるという物語を紡いでいます。光る鳥の輪の中では文化・言葉・人種を問わず人々が一緒になって遊ぶことができます。

●日時：9/26(金)18:30～22:00、9/27(土)17:00～22:00、9/28(日)17:00～20:00

●場所：麻布消防署仮庁舎建設用地(旧麻布警察署跡地)

●参加料：無料

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木街なかプログラム(六本木各所エリア)



FIXER Photographic Studio

フォン・チェン・ツォン《Sailing Castle: Roppongi》

インスタレーション

アーティストのフォン・チェン・ツォンの《Sailing Castle》シリーズは、都市を、海に集う船と同じように、ビル群によって形作られていると捉えています。巨大な木製のインスタレーションを通して、彼は六本木の建築の輪郭と精神をひとつの形にまとめました。

さまざまな時代の帆船が出会うとき、それは旅立ちと帰郷を語る。

船に乗り、帆を上げ、風を感じ、大海原へ。

出発の準備は整った。

帰る準備はできている。

- 日時：9/26(金)18:30～22:00、9/27(土)13:00～22:00、9/28(日)13:00～20:00
- 場所：天祖神社
- 参加料：無料



新種のImmigrationsB《ぼえみゅ》

パフォーマンス

踊れる朗読、やさしいノイズ。私たちは、バンドです。六本木アートナイト2024で大きな反響を呼んだ「新種のImmigrationsB」が、今年も六本木アートナイトに出演します。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：龍土町美術館通り
- 参加料：無料



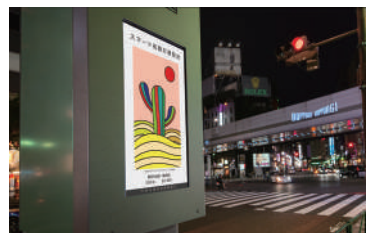
山本 裕 & Honey→B《妖怪図鑑六本木ノ夜》

オープンコール・プロジェクト採択作品

パフォーマンス

人々は古来より、説明不可能な現象や情動を“妖怪”というかたちで表してきました。それは恐怖の対象であると同時に、想像力の投影でもあり、無名の声なきものに形を与える文化的実践でありました。本作では、六本木の夜に潜む気配を手がかりに様々な妖怪を召喚。観客は空間内を自由に巡り、妖怪と対峙しながら、次なる儀式のトリガーを解き明かします。やがて全妖怪が一堂に集い、恐れ、笑い、不安、エロスが渦巻く、幻想と現実が交錯するパフォーマンスを展開。今宵、あなたは出会うことになるでしょう…現代に潜む“見えないはずの他者”と。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：龍土町美術館通り
- 参加料：無料



スマート街路灯展覧会

六本木商店街が設置しているスマート街路灯のデジタルサイネージを使って、六本木デザイナーズフラッグ・コンテストの優秀作品を掲載展示します。

- 日時：9/19(金)～9/28(日)6:00～26:00
- 場所：六本木交差点付近商店街街路灯21基
- 参加料：無料

■ インクルーシブ・アート・プログラム



六本木アートナイトをさまざまな人たちと巡るツアーとオンライン鑑賞会を開催します。会場を散歩しながら作品鑑賞をしたり、オンラインで現地の雰囲気を味わったり、参加者同士で対話しながら作品を楽しみましょう。

企画協力：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

- 日時：①鑑賞ツアー 9/26(金)、9/28(日) (予定) ②オンライン鑑賞会 9/27(土) (予定)
- 場所：六本木アートナイト会場各所／オンライン
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細はウェブサイトにて告知します。
- 定員：①鑑賞ツアー 各回4名程度 ②オンライン鑑賞10名程度

■ 英語ガイドツアー



写真：越間有紀子

英語ガイドツアー：感覚で旅する六本木の時層

海外から来日した方や多様な文化背景を持つ参加者とともに、英語を用いて作品を巡るアートツアーを実施します。六本木の街を歩きながら、街に点在するアート作品を鑑賞し、感じたことを対話を通じて深めていきます。AIが進化する現代において、身体的な感覚をひらき、リアルに作品と向き合う体験を生み出していく試みです。ツアーでは韓国文化にも触れながら、多様な価値観が交差する場を創出します。

企画協力：田中・ジョン・直人

- 日時：9/26(金)17:00～18:30、9/27(土)19:00～20:30、9/28(日)16:00～17:30
- 場所：六本木アートナイト会場各所
- 参加料：無料／要事前申し込み ※申し込み方法等の詳細はウェブサイトにて告知します。
- 定員：各回15名程度

■ 六本木アートナイト2025 開催概要

正 式 名 称 : 六本木アートナイト2025

日 時 : 2025 (令和7) 年9月26日(金)～28日(日)

26日(金)18:30～22:00、27日(土)13:00～22:00、28日(日)13:00～20:00

※プログラムによって展示時間が異なります。

※一部作品は長期展示あり [～10月5日(日)]

開 催 場 所 : 六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、
六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

入 場 料 : 無料(但し、一部のプログラム及び美術館企画展は有料)

お 問 合 せ : 六本木アートナイト実行委員会 ハローダイヤル: 050-5541-8600 (9:00～20:00)

主 催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、
六本木アートナイト実行委員会【国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、
森美術館、森ビル、六本木商店街振興組合(五十音順)】

助 成 : 文化庁

韓国文化体育観光部、韓国国際文化交流振興院・駐日韓国大使館 韓国文化院 ※韓日国交正常化60周年事業
台湾文化部

ウェブサイト : <https://www.roppongiartnight.com/>

Facebook : <https://www.facebook.com/RoppongiArtNight/>

X : https://x.com/r_artnight

Instagram : https://www.instagram.com/roppongi_art_night_official/

YouTube : https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight

TikTok : <https://www.tiktok.com/@roppongiartnight>

※実施内容等につきましては、諸般の事情により予告なく変更または中止する場合がございます。変更が生じる場合は、公式ウェブサイトや公式SNS等で改めてお知らせいたします。

※最新情報は順次、公式ウェブサイトや公式SNSにて発表してまいりますので、是非ご注目ください。

<報道関係のお問い合わせ>

六本木アートナイト広報プロモーション事務局(株式会社ワンオー内)

担当: 岡安・小島・入星 TEL: 03-5774-1420 FAX: 03-5774-1409

Email: RAN@one-o.com

広報協力: liil inc. 篠原礼子 Email: reiko@liil.com Cel: 090-3535-9012

● 広報用画像はこちらからダウンロードいただけます
<https://rebrand.ly/5be414>